

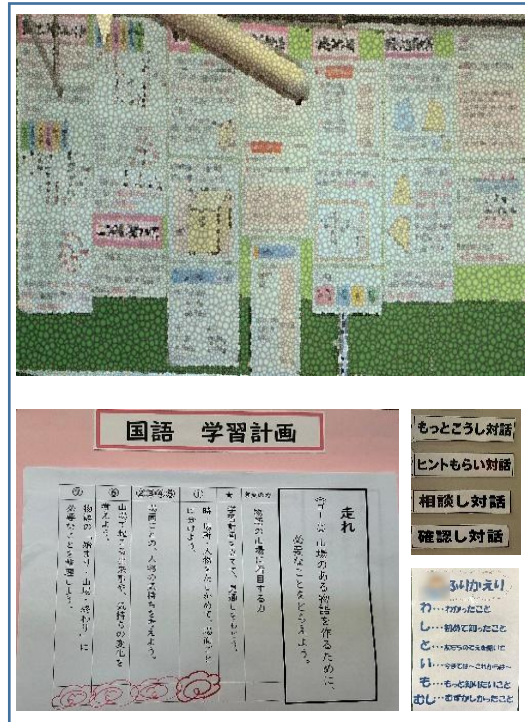
学力向上に効果のある取組事例

佐伯市立切畑小学校

②思考力、判断力、表現力等の育成

見通しのあるわかりやすい授業の実践をする。

- 国語・算数における単元計画の掲示により、子どもたちは学習の流れや目標を常に確認することができるため、「今学んでいることが単元全体のどこにつながるのか」を理解しながら学習を進めることができる。
- 学習のめあて、学習の流れ、重要な考えやまとめを明確に板書することで、子どもたちは「今、何を学んでいるのか」「どこに向かって学習が進んでいるのか」を常に把握できている。
- 板書が整理されていることで、内容を視覚的に捉えやすくなり、学習の重点がわかりやすい授業になる。また、家庭学習でノートにまとめる際にもわかりやすく大きな効果がある。
- 子どもが考えたくなる、必然性のある課題を設定する。例えば、課題を自分のこととして捉えられる、既習事項を活用できるなど。見通しを持って課題解決に取り組むことができる。また、既習事項をわかりやすく教室掲示することで、それを参考にしながら活動することができる。



交流活動の充実を図る。

- 個の思考を大切にする。そのために、わかりやすい課題を設定したり、既習事項を活用したりして、根拠のある思考を持つ場を確保するようにする。また、考えを持つことが難しい子には、ヒントカード等を準備して支援を行う。
- 教師は、子どもの考えをつなぐ働きかけを行う。ペア、グループでの交流では、対話が紹介で終わらずに、質問などして思考がうごくようにする。また全体では、教師が適切な発問や声かけをし、子ども同士の考えがつながっていくように展開する。このような交流活動を通して、児童の考えを深めることができる。
- 振り返りを充実させる。めあてに沿った内容で振り返ったり、交流を通しての変容・気づきなどを書かせたりして、児童自身が学びの深まりや成長を実感できる振り返りにする。

